

2006 年度 CIR 中間研修 分科会 E

楽しく学べる 人権ゲーム

国際交流はただただ楽しいだけではもったいないと思いませんか。楽しさを通じて異文化、人権、偏見などのことについて考えさせる方法を探していませんか。今回お教えするワークショップでは、3つのゲームで異文化体験をしながら違いなどに気づき、偏見や固定概念などについて楽しく学びます。



講師:

沼・梓・アリッセ(三重県 2年目)

アキ・リアウ(三重県 1年目)

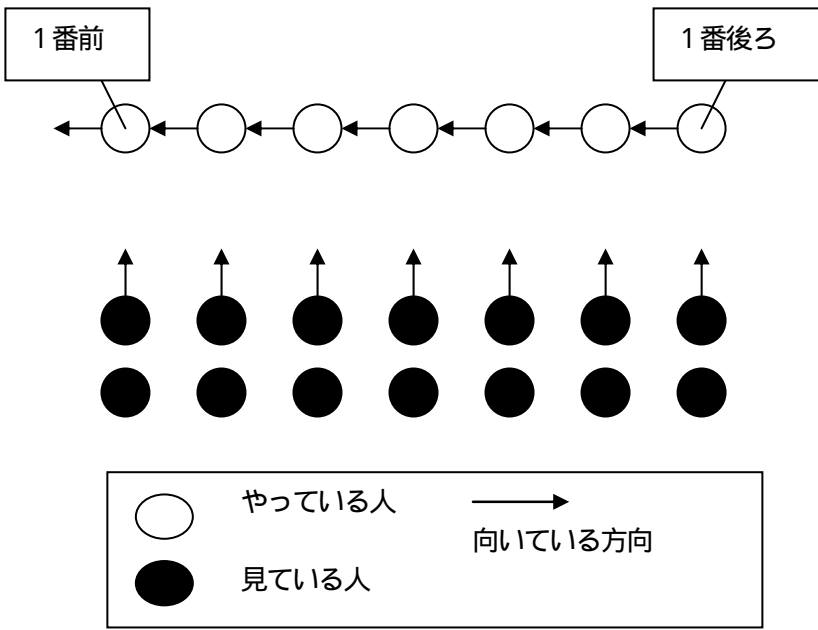
国際交流・異文化理解アクティビティー

平成 18 年 11 月 22 日

アクティビティー名	あいさつをしてみよう！（アイスブレイキング用）
対象者	7才以上
所要時間	10分程度
適した人数	5人以上
適した場所	屋外 屋内 <u>どちらでもよい</u>
準備物	*進行担当は最低2人は必要。
ねらい (参加者にどのようなことを考え、感じてもらいたいかな。)	異なる挨拶の仕方を自分でやってみて、違いを知る。また、違いを知った上で、偏見や先入観などについて考える。
すすめ方	1 いろいろな種類の挨拶をファシリテーター2人がお手本を見せる。 2 1回見せるたび、参加者にも隣の人としてみるよう指示する。 3 感想を聞く
上手く実施するためのヒント	できる限り日本にはなく、実際に存在する面白い挨拶の仕方を使うといいが、時には、存在しないような挨拶をつかってもその場を和ませるためにはいいかもしれない。 ペースよく、スピードをつけて行う方が面白い。 音楽を使うと雰囲気はよくなる。
実施前に必要な準備	
備考	

国際交流・異文化理解アクティビティー

平成 18 年 11 月 22 日

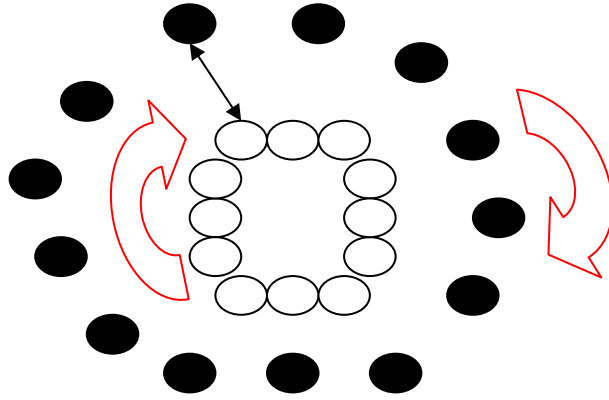
アクティビティー名	コミュニケーションゲーム
対象者	7才以上
所要時間	20分
適した人数	8～10人(ゲームに参加する人)
適した場所	屋外 屋内 <u>どちらでもよい</u>
準備物	伝言カード、笛、ストップウォッチ
ねらい (参加者にどのようなことを考え、感じてもらいたいか。)	言葉を使わずに物事を伝えることの難しさに気づく。また、言葉以外のコミュニケーションの方法もあるということも気づかせる。
すすめ方	<p>1. 参加者を、8～10人一組のグループに分ける。</p> <p>2. 1つのグループが立ち、一列に並ぶように指示する。</p>  <p>3. ファシリテーターは、以下の注意事項を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は、ゲーム中肩を叩かれるまでは絶対振り向かない。 ・一番後ろの人以外は、カードを見てはいけない。

	<p>・見学している人はカードを見てもよいが、ゲーム中は話さない。</p> <p>4 . 1 番後ろの人にカード（ある物と動作の名前が書かれたカード）を見せる。</p> <p>（カード例）カエル、シャワーをする、など。</p> <p>5 . 1 番後ろの人が 1 人前の人の肩を叩き、その人が振り向いたら、言葉を使わずに、身振り手振りだけでカードに書かれた言葉を伝える。この演技の時間は約 5 秒か、10 秒に限る（時間制限のため、笛とストップウォッチを使って注意する）。次に、後ろから 2 番目の人が、1 人前の人の肩を叩き、同じように演技する。1 番前の人に届くまで続ける。</p> <p>6 . 1 番前の人皆に向かって、カードに何が書いてあったかを推測して発表する。</p> <p>7 . 2 枚目のカードで、違うグループが同じゲームをする。</p> <p>8 . 参加者の感想を聞く。</p> <p>（例）どうだった？</p> <p>難しかった？</p> <p>何が難しかった？、など。</p> <p>9 . まとめ（ファシリテーターからの説明）</p> <p>このゲームに似ている実際にありそうな場面（言葉のわからない外国人が日本人とコミュニケーションを取る時など）について考えてみよう。</p>
<p>上手く実施するためのヒント</p>	<p>グループ対抗で伝えるスピードや正確さを競争させると、より盛り上がる。</p>
<p>実施前に必要な準備</p>	<p>伝言カードの作成</p>
<p>備考</p>	

国際交流・異文化理解アクティビティー

平成 18 年 11 月 22 日

アクティビティー名	この人、あの人、どんな人？
対象者	10才以上
所要時間	20分
適した人数	20人
適した場所	屋外 屋内 <u>どちらでもよい</u>
準備物	人数分のA4サイズ紙、人数分のボールペン、セロテープ
ねらい (参加者にどのようなことを考え、感じてもらいたいか。)	第一印象から他人についての判断のことを考える。固定概念や偏見などに気づかせる。
すすめ方	1. 各参加者の背中にA4紙をセロテープでくっ付ける。 2. 参加者を2グループに分け、2重輪の形にならんでもらう。人数が多い場合、輪を2重輪以上にすればゲームを行うことができる。



3. 音楽を流し、上記のように二つの輪は逆方向に回る。音楽が止まったら自分の前に立っている人と約30秒お喋りする。話の内容はファシリテーターが事前に準備しておいたテーマに合わせて実行する。
4. 話が終わったら後、相手の背中に貼っている紙に相手への第一印象を書く。
5. 書き終わったら又音楽を流し、1からのステップを繰り返す。
6. 数回(1~5の)ステップを繰り返した後、自分の背中に貼っている紙を読んでみる。そして自分の実際の性格と異なっているかどうかみんなで討論する。

<p>上手く実施するためのヒント</p>	<p>分かりやすく、面白い第一印象を相手の背中に書く。それと相手と話した内容について、自分はそれでどう思ったか。2重輪以上の場合、各輪が逆方向に回るように注意する。同じ方向になってしまうと、同じ相手になってしまいます。</p>
<p>実施前に必要な準備</p>	<p>話の内容、テーマを決める。</p>
<p>備考</p>	